

JRを問うシンポジウム

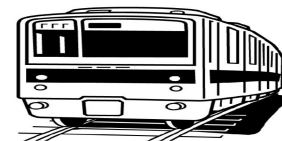
2018年

日時 10月20日(土) 13時30分～

会場 労働会館本館 第1・2・3会議室

講演 鉄道安全を考える 安部誠治氏
関西大学社会安全学部教授
新幹線重大インシデントに係る有識者会議 座長

報告 ◆リニアを考える～愛知・岐阜
◆交通権の観点から
◆2018利用者アンケート結果より



資料代 500円

あいちJR懇談会

国鉄の分割・民営化のなかで起こされた労働者への差別と分断の攻撃、そして所属する組合の違いを理由として多くの労働者がJRに不採用となりました。闘う労働者を励まし、連帯して闘う組織として「鉄道フォーラム愛知」が結成され、20余年の長きにわたる闘いを闘って来た中で政府を通じての和解が成立し、活動に終止符を打ちました。

「鉄道フォーラム」がその役割を終える一方で、東海4県の共闘組織が利用者・住民の求める公共交通としてのJRのあり方を求めて、取り組んできました。このために利用者アンケートを行い、危険箇所の改修やダイヤの改善等の成果を上げてきています。

この利用者アンケートの取り組みを継続することを決め、運動の母体となる組織を検討し、2014年2月に「公共交通としてのJRのあり方を考える愛知懇談会」(略称 あいちJR懇談会)を結成し、現在に至っています。

〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-18-22三博ビル5階
名古屋第一法律事務所内
TEL. (052) 211-2236 FAX (052) 211-2237

外注化や技能の不十分さが背景に

政府は、00年から鉄道事業法改正など運輸関係の規制緩和を進め、新規参入や撤退、運行路線の休廃止など免許・許可制から届出制に制度を移行させました。又、01年の省令改正によって事業者である鉄道会社の責任で技術基準が改訂できる仕組みとなりました。これによって、JRでは車両や線路などの検査周期の延伸が次々行われたほか、線路や電気設備、駅の出札や車両のメンテナンス業務などがグループ関連会社に業務委託されました。こうした鉄道事業の外注化に加えて、技術継承、労働条件、教育の不十分さがJR各社で多発する輸送障害や鉄道事故を引き起こす背後要因ともなっています。

輸送の安全が脅かされている

昨年、JR西日本での新幹線台車に異常を生じたまま運転を継続、JR東日本東北新幹線においては架線切断事故が発生。さらにJR東日本京浜東北線で架線切断によって7時間にもわたり列車が運休し、JR九州鹿児島線ではJR貨物係員の触車死亡事故、JR北海道石勝線では貨物列車脱線事故が発生するなど輸送の安全は大きく脅かされています。JR東海においては東海道線での電力設備損傷や線路陥没、紀勢線で特急台車損傷が発生しています。

JR東海は史上最高の利益を更新する中、様々な問題のあるリニア新幹線に莫大な投資を行う一方で、「システム化」と称して駅要員無人化施策を拡大して来ています。

安全で利用者最優先の企業へ

あいちJR懇談会では、昨年春にJR30年を検証する集会を開催し、30年を問うてきました。

今回は、関西大学の安部教授を招き、安全規制の強化をはじめ、安全・利用者最優先の企業体質への改善へ何が求められるのか、学習し、議論し、引き続き利用者や地域の皆さんとの運動の糧としていと考えています。